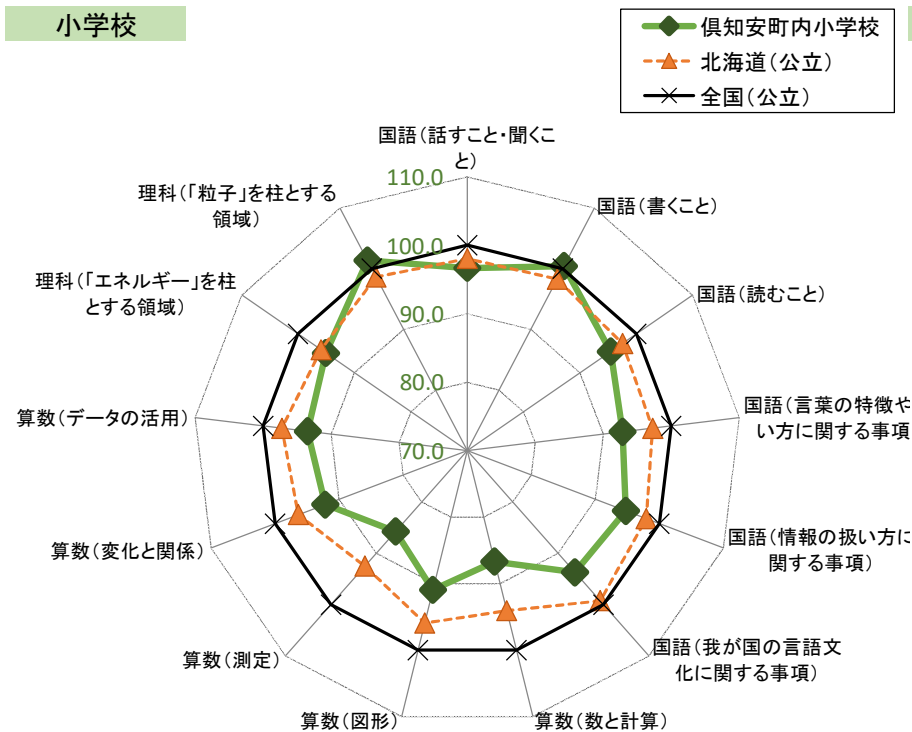


○ 教科に関する調査の状況

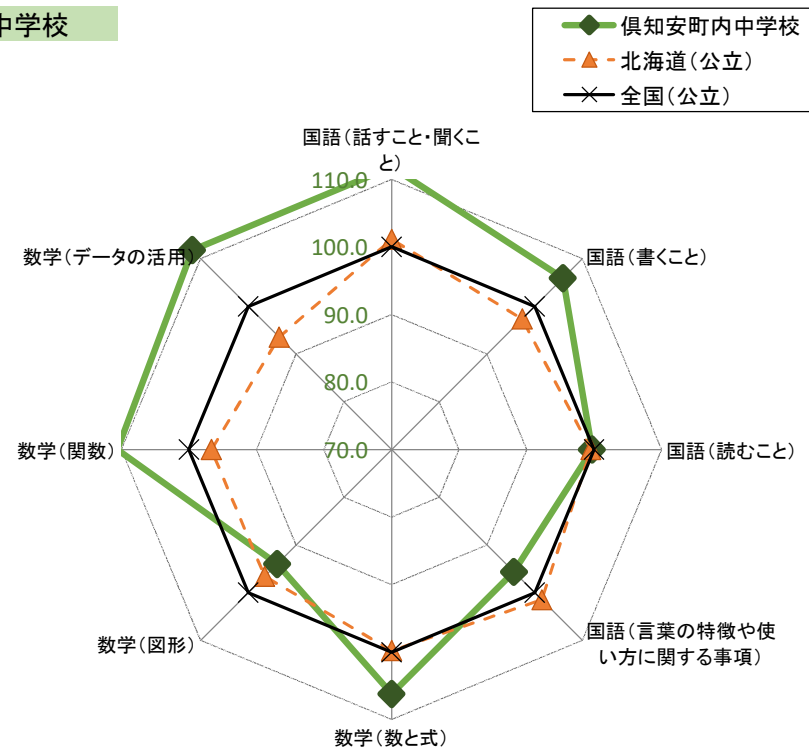
【レーダーチャート】

- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

小学校



中学校

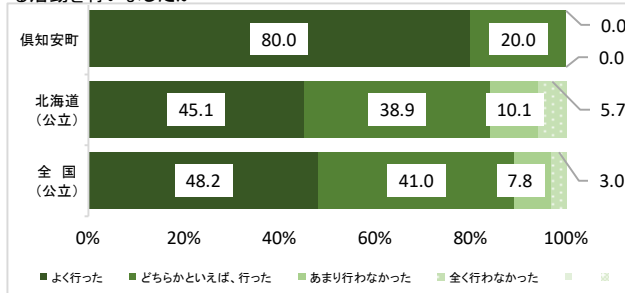


○ 質問調査の状況

小学校

<学校質問>

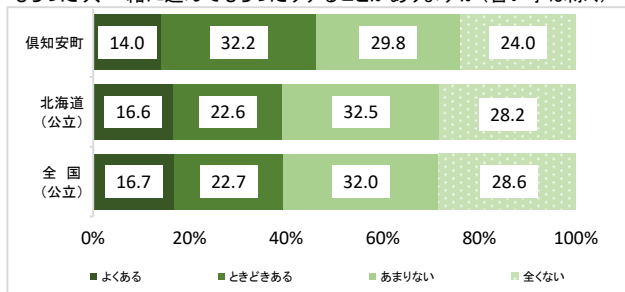
地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか



小学校

<児童質問>

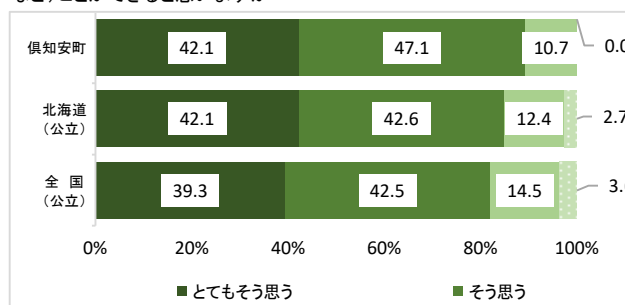
地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事は除く）



小学校

<児童生徒質問>

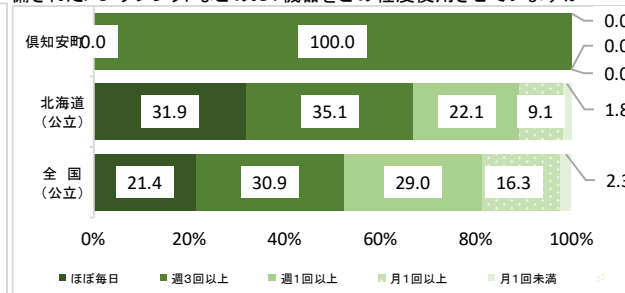
自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか



中学校

<学校質問>

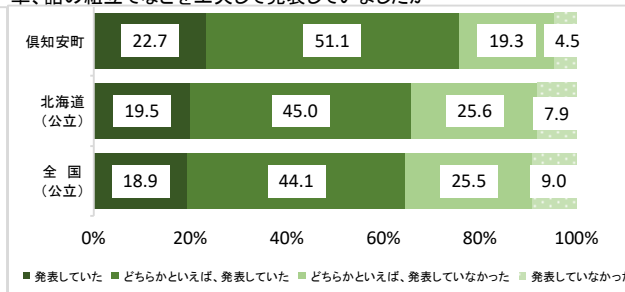
生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



中学校

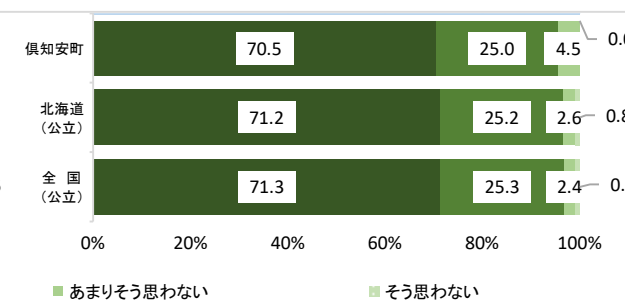
<生徒質問>

自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



中学校

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



○ 調査結果の分析

・ 小学校

国語・算数・理科ともに、全道、全国平均と比べると若干下回る結果となったが、授業の中ではPC、タブレットなどのICT機器の活用が大変進んでいる。わからないことがあった時には自らすぐに調べたり、考え方を友達と共有したり、比べたりしながら学習を進めることができている。

・ 中学校

国語、数学、理科全ての教科において全道、全国平均よりポイントが上回った。学習時には小学校から定着しているPCやタブレットなどのICT機器の活用により授業で、自分の考えをうまく伝えるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表した生徒の割合が高く、協働的な学習ができている。

・ 全体

町内では、学校と保護者、地域の方々が一体となって子どもたちの成長を支える地域学校協働活動の仕組みが充実し、定着してきている。小学校の児童質問紙では、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に地域の大人に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがあると答える児童が多く、地域全体で子ども達に関わりを持っている様子が伺える。それに伴い、中学校生徒質問紙では、その大人をモデルとして「自分は人の役に立つ大人になりたい」と思う生徒が95.5%いる状況となっている。

○ 今後の改善方策

- ・ 倶知安町教育大綱に基づく教育行政、教育施策の推進を図る。
- ・ 倶知安町実践交流会において、小中高等学校12年間を見通した授業改善の方策について検討・推進する。
- ・ 倶知安プランに基づいた学習規律・授業展開を統一する取り組みを進める。